

The background of the entire page is a photograph of an industrial facility, likely a refinery or chemical plant. It features several tall, cylindrical distillation columns, a complex network of pipes, and metal scaffolding. The scene is captured in a monochromatic blue-green color scheme, giving it a clean, technical appearance. The sky is overcast, and the overall atmosphere is industrial and professional.

新興プラントック

第104期 報告書

平成19年4月1日～平成20年3月31日

新興プラントック株式会社

証券コード：6379

株主の皆様へ



代表取締役社長

藤井 清喜

株主の皆様にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
ここに第104期(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)の
事業の概況をご報告申し上げます。
よろしくご高覧賜りますようお願い申し上げます。

Contents

| | |
|-------------|----|
| 株主の皆様へ | 1 |
| 特集 | 3 |
| 業績ハイライト(連結) | 6 |
| 連結財務諸表 | 7 |
| 単体財務諸表 | 9 |
| 事業のご紹介 | 10 |
| 中期計画のご説明 | 11 |
| 会社概要 | 13 |
| 株式の状況 | 14 |

当連結会計年度のわが国経済は、上半期は堅調な企業業績を背景とした民間設備投資の増加、個人消費の底堅さ等により、緩やかな拡大基調で推移いたしましたものの、下半期には原油価格や原材料価格の高騰、米国のサブプライムローン問題に端を発した金融市場の混乱等により、景気の先行きに不透明感が増してまいりました。

このような経済情勢の中、当社グループの主要顧客であります石油・石油化学業界では、プラントの信頼性、安全性の向上のためのメンテナンス工事や生産能力増強等に対する新規設備工事の投資案件は引き続き堅調に推移いたしました。こうした状況下、当社グループは平成19年度を初年度として策定した第3次中期計画に沿って、エンジニアリング力のあるメンテナンス会社として付加価値の高いメンテナンスサービスの提供、顧客ニーズの多様化・高度化に対応した的確な営業戦略の策定など、投資案件に対する積極的な営業活動を展開いたしました結果、受注高（エンジニアリング業）は前年同期比4.8%増の980億7千3百万円となり、完成工事高は前年同期比13.9%増の989億2千5百万円となりました。

完成工事高の内訳は、エンジニアリング業といたしましては、石油・石油化学関係で812億7千8百万円、一般化学・薬品・食品・電力等の一般工業関係で164億3千9百万円、環境その他で9億3千9百万円となりました。工事種類別の完成工事高の内訳につきましては、前期実績に比べ日常保全工事、定期修理工事および新規設備工事は上回りましたものの、改造・改修工事では下回りました。なお、その他の事業（エンジニアリング業以外）では、2億6千7百万円となっております。

当社グループの損益面におきましては、メンテナンスおよび新規設備関連の工事量増加に伴う稼働率の向上に加え、採算を重視した案件の獲得、ミス・不適合・手戻り等の原価上昇要因の発生防止などのプロジェクト管理および収益管理の徹底等に継続的に取り組みました結果、経常利益104億3千3百万円（前期比38.5%増）、当期純利益58億7千6百万円（前期比42.7%増）を計上することができました。

当社グループのうち、当社単体の業績につきましては、受注高は958億3千4百万円（前期比5.5%増）、完成工事高は959億9千8百万円（前期比14.0%増）、経常利益は101億8百万円（前期比36.9%増）、当期純利益は57億3千1百万円（前期比40.2%増）となりました。

（次期の見通し）

今後のわが国経済は、米国の景気後退、原油、鉄鉱石、石炭等の資源価額の高騰、金利・為替の不透明な動向等、景気見通しは楽観を許さない状況になってまいりました。また、当社を取り巻く事業環境におきましては、主要顧客であります石油・石油化学業界につきましても、国内の需要減に伴い補修および設備投資の見直しが懸念されます。

このような中、当社グループといたしましては、平成19年度からスタートした第3次中期計画に基づき、見直しを行いました経営目標の達成に向け、事業基盤および収益基盤の維持と一層の強化を図ってまいります。さらに、平成20年度におきましても、品質と安全を最優先とした「技術力・現場力」の強化をさらに進めるとともに、エンジニアリング能力のあるメンテナンス企業という当社グループの特徴を活かし、付加価値の高いメンテナンスサービスを提供いたしますことを基本に据え、顧客ニーズの多様化・高度化に対応した営業戦略を実践していくことにより、受注と収益の確保に引き続き注力してまいります。



プラントって何？

「プラント」とは、生産を行うために設置された機械や工場などの一連の設備システムをいい、製品によって、石油精製プラント、石油化学プラント、薬品プラントなどと呼ばれています。具体的には、ガソリンや医薬品などの製造装置が挙げられます。

プラントの正常な運転を継続していくことは、プラントを保有する企業にとって非常に重要な課題となっています。

プラントメンテナンスって何？

プラントにも人間同様に寿命があり、老朽化したプラントは事故の危険が増すばかりでなく、資源のロス、操業効率の低下を招きます。

また、巨大で複雑なプラントの操業は常に危険をはらんでおり、故障によるプラントの停止はプラントを保有する企業にとって巨額な損失をもたらすことになると同時に万一事故が発生した場合には、企業の受けるダメージははかりしれないものがあります。したがって、プラントを災害から守り、安全かつ安定的に操業させるために、プラントの保全・補修・改造を行うのですが、これを「プラントメンテナンス」と呼びます。プラントにとってプラントメンテナンスは欠かせないもののなのです。

クローズアップ プラントメンテナンス事業

One to One Maintenance

「プラントのホームドクター」として様々なプラントの安定稼働に貢献

新興プランテックは石油、石油化学、一般化学、薬品の製造プラントや環境装置を保有するお客様にプラントのメンテナンスを中心とした幅広いサービスを提供しています。

全国に5つの事業部とその傘下に18の事業所・営業所を組織し、かつ100箇所を超えるお客様の工場内で、お客様と一体となってプラントメンテナンスを実施しています。

わかりやすく言えば、「プラントのホームドクター」として、様々な業種のお客様にご信頼をいただき、プラントの安全で安定的な稼働に貢献しているのです。

完成工事高の8割以上を占める プラントメンテナンス事業

当社では、大きく分けて「プラントメンテナンス」「プラント建設」の2つの事業を展開していますが、プラントメンテナンス事業が完成工事高の8割以上を占めています。プラントメンテナンスには、プラントの安定稼動を目的とした一般補修工事や動機械の日常点検等を行う日常保全工事、プラントを一定期間全面的に停止して行われる定期修理工事、そして、プラントの能力増強や生産性向上のために行う改造・改修工事があります。

工事種類別に見たプラントメンテナンス事業の完成工事高内訳は、日常保全工事が約2.5割、定期修理工事が約4

割、改造・改修工事が約2割となっています。

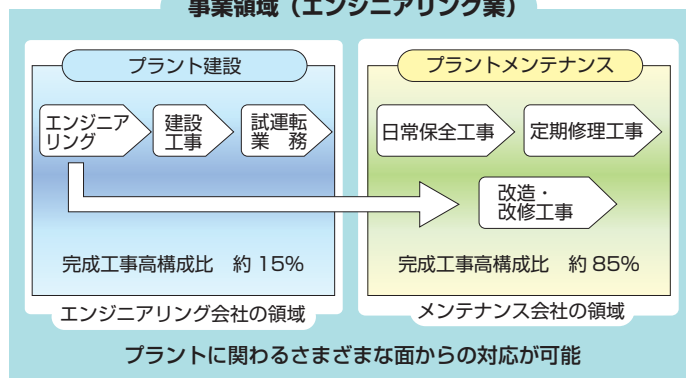
とりわけ完成工事高の増加が目立つ定期修理工事に関しては、プラントの老朽化に伴い受注案件は順調に増加しています。

この定期修理工事は、当社がもっとも得意としている分野でもあり、独自技術の開発・導入を進めています。

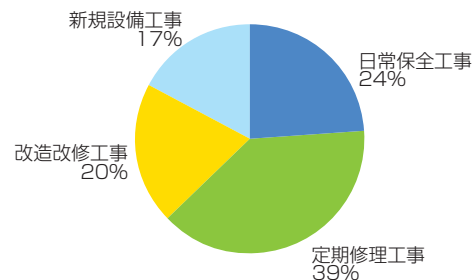
迅速な対応が要求される場面でも、現場にしっかりと密着して、的確なメンテナンスを実施するとともに、グループの総合エンジニアリング力を発揮し、当社の業績は順調に伸びています。

平成20年3月期は完成工事高989億円、当期純利益58億円といずれも過去最高値を達成いたしました。

事業領域（エンジニアリング業）



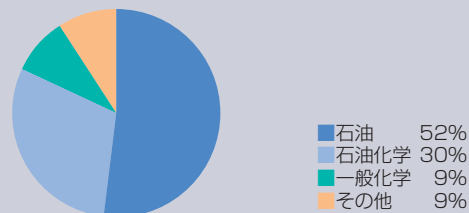
平成20年3月期完成工事高の構成



取引先は石油・石油化学・薬品業界などの大手が多数を占めています。

全国に5つの事業部とその傘下に18の事業所・営業所を組織し、かつ100箇所を超えるお客様の工場内で、お客様と一体となってプラントメンテナンスを実施しています。

顧客業種別完成工事高





日常保全工事

プラントの安定稼働を第一義とした日々発生するメンテナンス工事であり、基本的には当社の技術員がお客様の工場に保全要員として常駐し、プラントの一般補修工事や動機日常点検を行うとともに、突発的なアクシデントにも対応します。

お客様の保全部門と一体となってプラントを守る体制をとっており、工場単位、装置単位あるいはカテゴリーごとの一括契約方式のものやお客様からの日々の要求により施工する工事があります。

現在ではメンテナンスを外部に委託する「一括メンテナンス」への動きが顕著に現れています。お客様によりその形態は様々であり、当社としてもその要望に応えるべく、「One to One Maintenance」をキーワードとして業務にあたっています。

定期修理工事

高圧ガス保安法、労働安全衛生法といった法令で定められた、プラントを一定期間停止して行われる修理工事であり、プラントメンテナンスにおいて最も大規模な工事です。

定期修理工事は、短期集中型の工事であるため、作業員をはじめ機械類の大量動員が不可欠で、それらを効率的に稼働させるための高度な運営技術が要求されます。

定期修理工事は当社の最も得意とする分野であり、設備の稼働率向上、生産機会損失の削減を目的とした取り組みの一環として、工期短縮を重点項目に掲げて、独自技術の開発、導入を進めています。

改造・改修工事

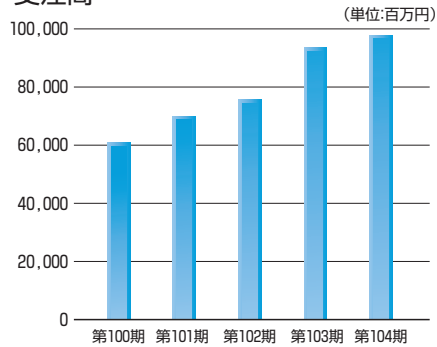
プラントの稼働率や生産性を向上させるための能力増強、より付加価値の高い製品の生産や省エネルギー・環境保全対策のために、プラントの改造・改修を行います。老朽化したプラントや既設プラントの合理的かつ低コストでの改造・改修がメリットとしてあげられ、プラントの生産性向上に大きく貢献しています。

新規設備工事とは異なり制約が多い中での工事が多く、日頃から蓄積された現場でのノウハウが必要です。

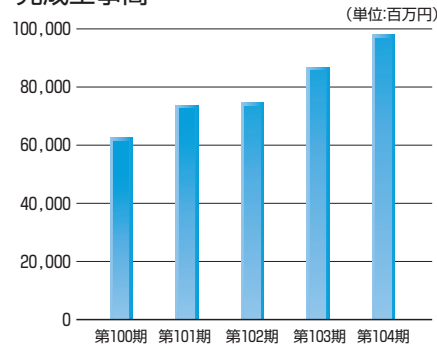
また、この中には当社の得意分野の一つである原油タンクをはじめとした各種タンクの開放検査および補修工事があります。特に補修工事はタンク本体から基礎に至るまで各種工法を開発しています。

業績ハイライト (連結)

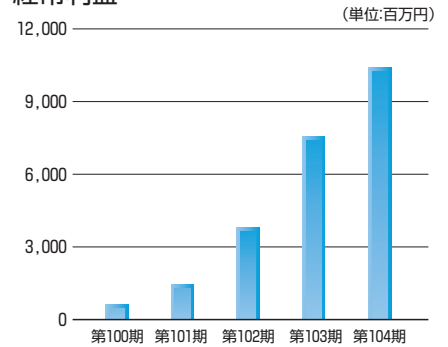
受注高



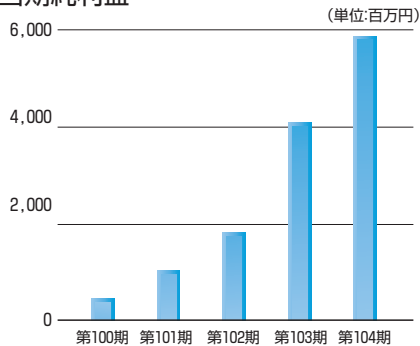
完成工事高



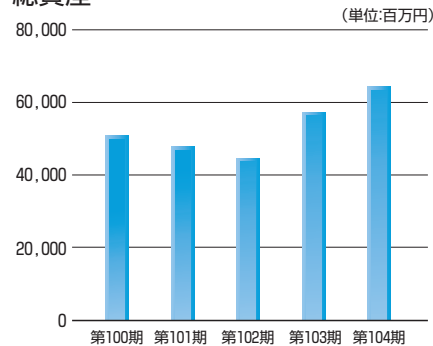
経常利益



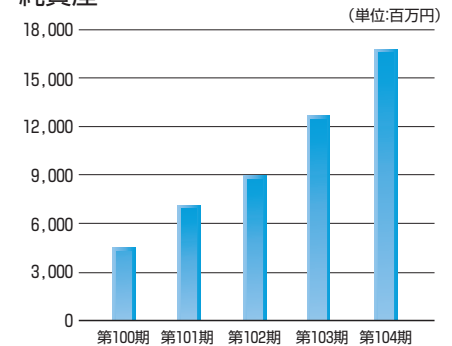
当期純利益



総資産



純資産



(単位：百万円)

| | 第100期 (平成16年3月期) | 第101期 (平成17年3月期) | 第102期 (平成18年3月期) | 第103期 (平成19年3月期) | 第104期 (平成20年3月期) |
|-------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|
| 受 注 高 | 60,868 | 69,986 | 75,672 | 93,618 | 98,073 |
| 完成工事高 | 62,518 | 73,775 | 74,648 | 86,826 | 98,925 |
| 経常利益 | 600 | 1,458 | 3,784 | 7,532 | 10,433 |
| 当期純利益 | 433 | 1,037 | 1,809 | 4,116 | 5,876 |
| 総 資 産 | 50,716 | 47,744 | 44,665 | 57,314 | 64,363 |
| 純 資 産 | 4,459 | 7,091 | 8,973 | 12,632 | 16,816 |

連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位：百万円)

| 科 目 | 当連結会計年度 (平成20年3月31日現在) | 前連結会計年度 (平成19年3月31日現在) |
|----------------|---------------------------|---------------------------|
| 資 産 の 部 | | |
| 流 動 資 産 | 49,549 | 42,708 |
| 現金預金 | 8,569 | 7,328 |
| 受取手形及び完成工事未収入金 | 21,839 | 22,436 |
| 有 価 証 券 | 1,498 | 999 |
| 未成工事支出金 | 16,779 | 10,998 |
| 繰延税金資産 | 748 | 806 |
| その他流動資産 | 122 | 156 |
| 貸倒引当金 | △ 8 | △ 17 |
| 固 定 資 産 | 14,813 | 14,606 |
| 有形固定資産 | 10,724 | 11,025 |
| 無形固定資産 | 95 | 71 |
| 投資その他の資産 | 3,993 | 3,509 |
| 資 産 合 計 | 64,363 | 57,314 |

(単位：百万円)

| 科 目 | 当連結会計年度 (平成20年3月31日現在) | 前連結会計年度 (平成19年3月31日現在) |
|------------------------|---------------------------|---------------------------|
| 負 債 の 部 | | |
| 流 動 負 債 | 46,839 | 42,990 |
| 固 定 負 債 | 707 | 1,691 |
| 負 債 合 計 | 47,546 | 44,682 |
| 純 資 産 の 部 | | |
| 株 主 資 本 | 17,274 | 12,241 |
| 資 本 金 | 2,754 | 2,754 |
| 資 本 剰 余 金 | 1,688 | 1,688 |
| 利 益 剰 余 金 | 12,864 | 7,819 |
| 自 己 株 式 | △ 33 | △ 21 |
| 評価・換算差額等 | △ 509 | 359 |
| その他有価証券評価差額金 | △ 502 | 380 |
| 為替換算調整勘定 | △ 6 | △ 20 |
| 少数株主持分 | 51 | 31 |
| 純 資 産 合 計 | 16,816 | 12,632 |
| 負 債 ・ 純 資 産 合 計 | 64,363 | 57,314 |

連結損益計算書

(単位：百万円)

| 科 目 | 当連結会計年度 | | 前連結会計年度 | |
|--------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| | 自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日 | 自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日 | 自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日 | 自 平成17年4月1日 至 平成18年3月31日 |
| 完成工事高 | 98,925 | 86,826 | | |
| 完成工事原価 | 85,296 | 76,254 | | |
| 完成工事総利益 | 13,628 | 10,572 | | |
| 販売費及び一般管理費 | 2,999 | 2,923 | | |
| 営業利益 | 10,628 | 7,648 | | |
| 営業外収益 | 317 | 372 | | |
| 営業外費用 | 512 | 489 | | |
| 経常利益 | 10,433 | 7,532 | | |
| 特別利益 | 23 | 21 | | |
| 特別損失 | 945 | 91 | | |
| 税金等調整前当期純利益 | 9,511 | 7,461 | | |
| 法人税、住民税及び事業税 | 3,584 | 3,624 | | |
| 法人税等調整額 | 28 | △ 290 | | |
| 少数株主利益 | 21 | 10 | | |
| 当期純利益 | 5,876 | 4,116 | | |

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

| 科 目 | 当連結会計年度 | | 前連結会計年度 | |
|------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| | 自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日 | 自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日 | 自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日 | 自 平成17年4月1日 至 平成18年3月31日 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 6,194 | 4,142 | | |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △ 1,880 | △ 525 | | |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △ 2,537 | △ 2,837 | | |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | △ 35 | 13 | | |
| 現金及び現金同等物の増加額 | 1,740 | 793 | | |
| 現金及び現金同等物期首残高 | 8,327 | 7,533 | | |
| 現金及び現金同等物期末残高 | 10,068 | 8,327 | | |

連結株主資本等変動計算書 (平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

(単位：百万円)

| 項 目 | 株主資本 | | | | | 評価・換算差額等 | | | 少数株主 持 分 | 純 資 産 計 |
|-------------------------------|-------|----------------|--------------|------|-------------|------------------|--------------|----------------|-------------|------------|
| | 資 本 金 | 資 本 金 剰 余 金 | 利 益 剰 余 金 | 自己株式 | 株主資本 合 計 | その他有価証券 評価差額金 | 為替換算 調整勘定 | 評価・換算 差額等合計 | | |
| 平成19年3月31日残高 | 2,754 | 1,688 | 7,819 | △ 21 | 12,241 | 380 | △ 20 | 359 | 31 | 12,632 |
| 連結会計年度中の変動額 | | | | | | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | △ 832 | | △ 832 | | | — | | △ 832 |
| 当期純利益 | | | 5,876 | | 5,876 | | | — | | 5,876 |
| 自己株式の取得 | | | | △ 11 | △ 11 | | | — | | △ 11 |
| 株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額) | | | | | — | △ 883 | 13 | △ 869 | 20 | △ 849 |
| 連結会計年度中の変動額合計 | — | — | 5,044 | △ 11 | 5,033 | △ 883 | 13 | △ 869 | 20 | 4,183 |
| 平成20年3月31日残高 | 2,754 | 1,688 | 12,864 | △ 33 | 17,274 | △ 502 | △ 6 | △ 509 | 51 | 16,816 |

単体財務諸表

貸借対照表

(単位：百万円)

| 科 目 | 当事業年度 | 前事業年度 |
|-----------------|----------------|----------------|
| | (平成20年3月31日現在) | (平成19年3月31日現在) |
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | 48,760 | 41,760 |
| 固定資産 | 14,766 | 14,617 |
| 有形固定資産 | 10,287 | 10,575 |
| 無形固定資産 | 90 | 65 |
| 投資その他の資産 | 4,389 | 3,975 |
| 資産合計 | 63,527 | 56,377 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | 46,477 | 42,345 |
| 固定負債 | 559 | 1,551 |
| 負債合計 | 47,037 | 43,897 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | 16,997 | 12,110 |
| 資本金 | 2,754 | 2,754 |
| 資本剰余金 | 1,688 | 1,688 |
| 利益剰余金 | 12,587 | 7,688 |
| 自己株式 | △ 33 | △ 21 |
| 評価・換算差額等 | △ 508 | 370 |
| その他有価証券評価差額金 | △ 508 | 370 |
| 純資産合計 | 16,489 | 12,480 |
| 負債・純資産合計 | 63,527 | 56,377 |

損益計算書

(単位：百万円)

| 科 目 | 当事業年度 | 前事業年度 |
|--------------|---------------------------|---------------------------|
| | 自平成19年4月1日 至平成20年3月31日 | 自平成18年4月1日 至平成19年3月31日 |
| 完成工事高 | 95,998 | 84,225 |
| 完成工事原価 | 83,007 | 74,155 |
| 完成工事総利益 | 12,990 | 10,070 |
| 販売費及び一般管理費 | 2,731 | 2,611 |
| 営業利益 | 10,259 | 7,458 |
| 営業外収益 | 347 | 403 |
| 営業外費用 | 497 | 477 |
| 経常利益 | 10,108 | 7,384 |
| 特別利益 | 27 | 20 |
| 特別損失 | 945 | 72 |
| 税引前当期純利益 | 9,190 | 7,333 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 3,415 | 3,473 |
| 法人税等調整額 | 44 | △ 229 |
| 当期純利益 | 5,731 | 4,088 |

株主資本等変動計算書 (平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

(単位：百万円)

| 項 目 | 株主資本 | | | | | | | | | | 評価・換算差額等 | | 純資産合計 | |
|-----------------------------|-------|-------|----------|---------|-------|----------|-----|---------|--------|--------|--------------|------------|-------|--------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | | | 利益準備金 | 利益剰余金 | | | 自己株式 | 株主資本合計 | その他有価証券評価差額金 | 評価・換算差額等合計 | | |
| | | 資本準備金 | その他資本剰余金 | 資本剰余金合計 | | その他利益剰余金 | | 利益剰余金合計 | | | | | | |
| 平成19年3月31日残高 | 2,754 | 1,372 | 316 | 1,688 | 408 | 238 | 500 | 6,541 | 7,688 | △ 21 | 12,110 | 370 | 370 | 12,480 |
| 事業年度中の変動額 | | | | | | | | | | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | | | — | | | △ 832 | △ 832 | | △ 832 | | — | △ 832 |
| 当期純利益 | | | | | — | | | 5,731 | 5,731 | | 5,731 | | — | 5,731 |
| 買換資産圧縮積立金の取崩 | | | | | — | △ 7 | | 7 | — | | — | | — | — |
| 自己株式の取得 | | | | | — | | | | — | △ 11 | △ 11 | | — | △ 11 |
| 株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額) | | | | | — | | | | — | | — | △ 878 | △ 878 | △ 878 |
| 事業年度中の変動額合計 | — | — | — | — | — | △ 7 | — | 4,907 | 4,899 | △ 11 | 4,887 | △ 878 | △ 878 | 4,009 |
| 平成20年3月31日残高 | 2,754 | 1,372 | 316 | 1,688 | 408 | 231 | 500 | 11,448 | 12,587 | △ 33 | 16,997 | △ 508 | △ 508 | 16,489 |

事業のご紹介

当社は石油、石油化学、一般化学、薬品、食品などのお客様のプラント（製品製造装置）のメンテナンスから建設工事に至る幅広い業務を提供しております。

■ プラントメンテナンス

当社はプラントメンテナンスのエキスパートとして、長年の経験により培った技術と高度な技能により、専門性の高いメンテナンスサービスを提供し、プラントの安全で安定的な操業に貢献できるよう日々努力を重ねております。また、お客様のプラントメンテナンスに関する多様なニーズにお応えするために、「One to One Maintenance」をテーマとして、それぞれのお客様とのコミュニケーションを通じ、プラントメンテナンスに関する課題や問題点に対する改善策や解決策を提案しております。

メンテナンスにおいては、お客様のプラントの安全で安定的な操業を支えることを目的として、次のような工事を行っております。

- プラント稼動に伴い、発生する配管の補修、フィルターの清掃、回転機械の点検などの工事
- 高圧ガス保安法などの法令で定められたものを中心に定期的にプラントを停止させ、点検、補修、改造などを行う工事
- プラントの能力増強や生産性向上のための改造や老朽化による設備更新などを目的に行われる工事



（プラントメンテナンスについては
本冊子P3からの特集にて詳しくご
紹介しております）

■ プラント建設

お客様は新製品の製造や生産能力の増強などを目的として、プラントを新たに建設される場合があります。当社では中小規模のプラント建設を主体として、各種プラントの企画から基本設計、詳細設計、資機材調達、現地工事、試運転に至る機能的なプロジェクトマネジメントにより、効率的で合理的なプラント建設を実現しております。



第3次中期計画

Growth to the Next Stage

プラントメンテナンス業界のリーディングカンパニーとして更なる成長を目指します。

「高度な品質のメンテナンスおよびエンジニアリングの提供を通じて永続的に発展し、顧客の生産性の向上に寄与するとともに、社会の繁栄ならびに地球環境の保全に貢献する。」という経営理念のもと、平成19年4月から平成22年3月までの第3次中期計画を推進中です。

■ 経営ビジョン

当社グループの事業は、「顧客プラントの安全で安定的な操業を支え、生産性の向上に貢献する付加価値の高い事業である。」という基本認識に立ち、エンジニアリング能力のあるメンテナンス企業という当社グループの特長を活かし、顧客に信頼される強力なパートナーとして、プラントメンテナンス業界のリーディングカンパニーとして成長し続けます。また、「確かな品質と安全」を確保し、新たな発想に基づく「現場改革」を推進し、「人材の強化・育成」に注力するとともに、「内部統制システム」の確実な運用を行い、企業価値の向上と経営目標の達成を図ります。



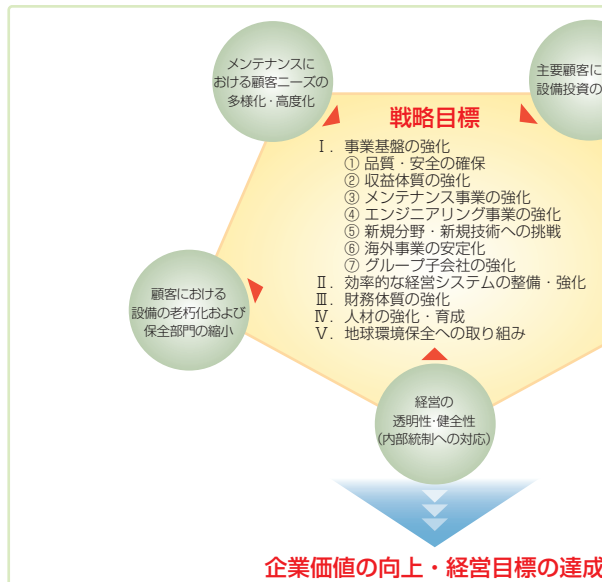
■ 業績目標および財務目標

連結業績目標

| | 平成20年3月期実績 | 平成21年3月期 | 平成22年3月期 |
|-------|------------|----------|----------|
| 受注高 | 980億円 | 1,000億円 | 1,000億円 |
| 完成工事高 | 989億円 | 1,000億円 | 1,000億円 |
| 経常利益 | 104.3億円 | 97.0億円 | 97.0億円 |
| 当期純利益 | 58.7億円 | 50.0億円 | 50.0億円 |

連結財務目標（平成22年3月期目標）

- ①有利子負債：ゼロ（単体）
- ②純資産：200億円以上



■ 事業戦略

I. 事業基盤の強化

① 品質・安全の確保

「品質・安全」の確保を最優先課題として、顧客プラントの安全で安定的な操業と生産性の向上に貢献します。

② 収益体質の強化

各事業拠点と一体となった営業施策を展開し、安定的な受注の確保を図るとともに、原価低減のための施策を実行し、コスト競争力を強化します。

③ メンテナンス事業の強化

メンテナンスニーズの多様化・高度化に確実に対応できる社内体制を整備するとともに、メンテナンス事業の高付加価値化を目指して、新しい工法・省力化機械の導入、新しいマネジメント手法の確立などの「現場改革」を推進し、メンテナンス技術および施工能力の向上を図ります。

④ エンジニアリング事業の強化

メンテナンスから派生する能力増強・生産性向上のための投資案件に対して、積極的な営業展開を図るとともに、エンジニアリング業務に必要な専門技術力を磨き、プロジェクト遂行能力の強化を図ります。

⑤ 新規分野・新規技術への挑戦

当社グループのコア事業であるメンテナンス分野に関連した中で、新規事業の創出、成長分野への進出、新商品の開発を検討します。

⑥ 海外事業の安定化

アジアを中心とした海外事業の実績を重ね、グループ会社を含めた海外事業の安定化を図ります。

⑦ グループ子会社の強化

グループ子会社の収益力の向上を図り、グループ経営の基盤を強化します。

II. 効率的な経営システムの整備・強化

内部統制システムの確実な運用を図ることにより、経営の透明性・健全性を確保するとともに、事業目的の達成に関わるリスクの低減に注力し、企業価値を高めます。

III. 財務体質の強化

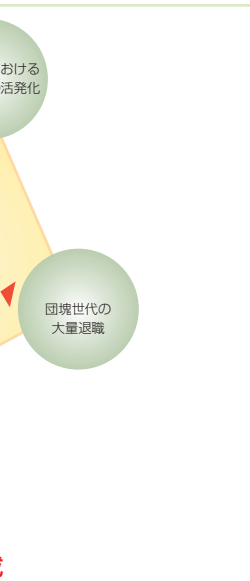
収益体質の強化を図り、自己資本を高め、引き続き有利子負債の削減に取り組み、財務体質の更なる強化を図ります。

IV. 人材の強化・育成

社員能力のレベルアップを図るための具体的な人材の強化・育成施策を実行するとともに、活力のある職場環境を構築するため、人事諸制度の見直しを行います。

V. 地球環境保全への取り組み

企業の社会的責任（CSR）の見地から環境問題を捉え、地球環境の保全に積極的に取り組みます。



会社概要

■ 概要 (平成20年3月31日現在)

- 商号 新興プランテック株式会社
Shinko Plantech Co., Ltd.
- 本社所在地 〒235-0017 横浜市磯子区新磯子町27番地 5
- 設立 1938年(昭和13年)7月20日
- 資本金 2,754,473,003円
- 上場取引所 東京証券取引所 市場第1部
- 従業員数 連結 1,051名 単体 919名

■ ネットワーク (平成20年7月1日現在)

- 工場 磯子(横浜市)
- 事業所 室蘭(室蘭市)、仙台(仙台市)、横浜(横浜市)、根岸(横浜市)、富山(富山市)、鹿島(神栖市)、千葉(市原市)、川崎(川崎市)、川崎TG(川崎市)、和歌山(有田市)、大阪(高石市)、水島(倉敷市)、岩国(岩国市)、徳山(周南市)、新潟(新潟市)、東海(静岡市)
- 子会社 新興総合サービス株式会社(横浜市)
新興動機械サービス株式会社(横浜市)
エヌ・エス・エンジニアリング株式会社(横浜市)
無錫興高工程技術有限公司(中国)

■ 役員 (平成20年7月1日現在)

- | | | |
|-------------------|------|--------------------|
| ● 取締役 | | ● 監査役 |
| 代表取締役社長 執行役員社長 | 藤井清喜 | 常勤監査役 曾根田悦郎 |
| 取締役 専務執行役員 | 長尾和彦 | 常勤監査役 朝倉和彦 |
| 取締役 常務執行役員 | 佐野貞雄 | 監査役 三原秀次 |
| 取締役 常務執行役員 | 大島寿之 | 監査役 渡辺裕史 |
| 取締役 常務執行役員 | 曾田治男 | ● 執行役員 (取締役兼務者を除く) |
| 取締役 常務執行役員 | 清水邦雄 | 常務執行役員 梁取隆夫 |
| 取締役 常務執行役員 | 小宮良 | 常務執行役員 小池康夫 |
| 取締役 執行役員 | 寺田義広 | 執行役員 岡富洋 |
| 取締役 執行役員 | 吉川善治 | 執行役員 中沢信雄 |
| 取締役 常務執行役員 | 中田正人 | 執行役員 大橋良司 |
| | | 執行役員 王子真一 |
| | | 執行役員 佐々木勉 |
| | | 執行役員 中野功 |
| | | 執行役員 宮崎周一郎 |
| | | 執行役員 大友喜治 |

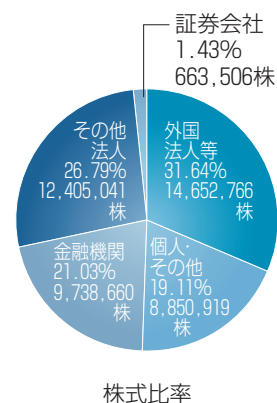
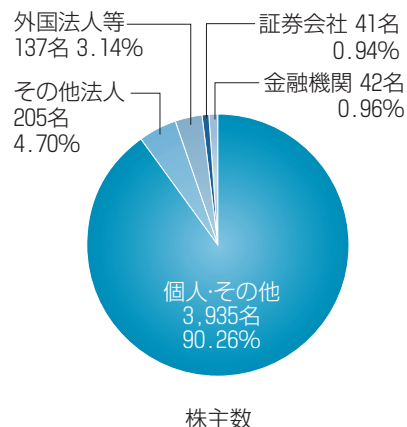
株式の状況 (平成20年3月31日現在)

- 発行可能株式総数 160,000,000株
- 発行済株式総数 46,310,892株
- 株主数 4,360名 (前期末比 948名増)
- 大株主

| 株主名 | 当社への出資状況 | |
|------------------------------------|----------|---------|
| | 持株数(千株) | 出資比率(%) |
| 新日本石油株式会社 | 6,100 | 13.19 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) | 5,111 | 11.06 |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 1,570 | 3.40 |
| 株式会社NIPPOコーポレーション | 1,500 | 3.24 |
| ステートストリートバンク アンドトラストカンパニー | 1,075 | 2.33 |
| モルガン・スタンレーアンド カンパニーインク | 1,008 | 2.18 |
| ルクセンブルグオフショアジャス ディックレンディングアカウント | 869 | 1.88 |
| 新興プランテック従業員持株会 | 849 | 1.84 |
| バンクオブニューヨークヨーロ ッパリミテッド131705 | 839 | 1.81 |
| 土田健三 | 652 | 1.41 |

(注) 出資比率は、自己株式(76,409株)を控除して計算しております。

●所有株数別株式分布状況



2007年7月2日より単元株を
「1,000株」から「**100株**」に引き上げております。

●株主メモ

決 算 期
定 時 株 主 総 会
基 準 日

3月31日

6月中

定時株主総会については3月31日といたします。
その必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。

配 当 金 受 領
株 主 確 定 日
株 主 名 簿 管 理 人

3月31日および中間配当を実施するときは9月30日

同 事 務 取 扱 場 所

東京都千代田区丸の内一丁目4番5号

三菱UFJ信託銀行株式会社

東京都千代田区丸の内一丁目4番5号

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

〒137-8081東京都江東区東砂七丁目10番11号

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

TEL 0120-232-711 (フリーダイヤル)

(電話問い合わせ)
および郵便物送付先)

同 取 次 所
公 告 の 方 法

三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店

電子公告といたします。但し、電子公告による公告を
することができない場合は、日本経済新聞に掲載する
方法といたします。

単 元 株 式 数

100株



ホームページをリニューアルしました

2008年4月、当社のホームページをリニューアルしました。

トップページから欲しい情報にすぐたどりつくように利便性を向上させました。

また、投資家情報の充実もはかり、当社をよりわかりやすくお伝えしたいと考えております。ぜひ新しいホームページをご覧ください。

当社の最新情報はこちらから

<http://www.s-plantech.co.jp/>